

福岡県立山門高等学校



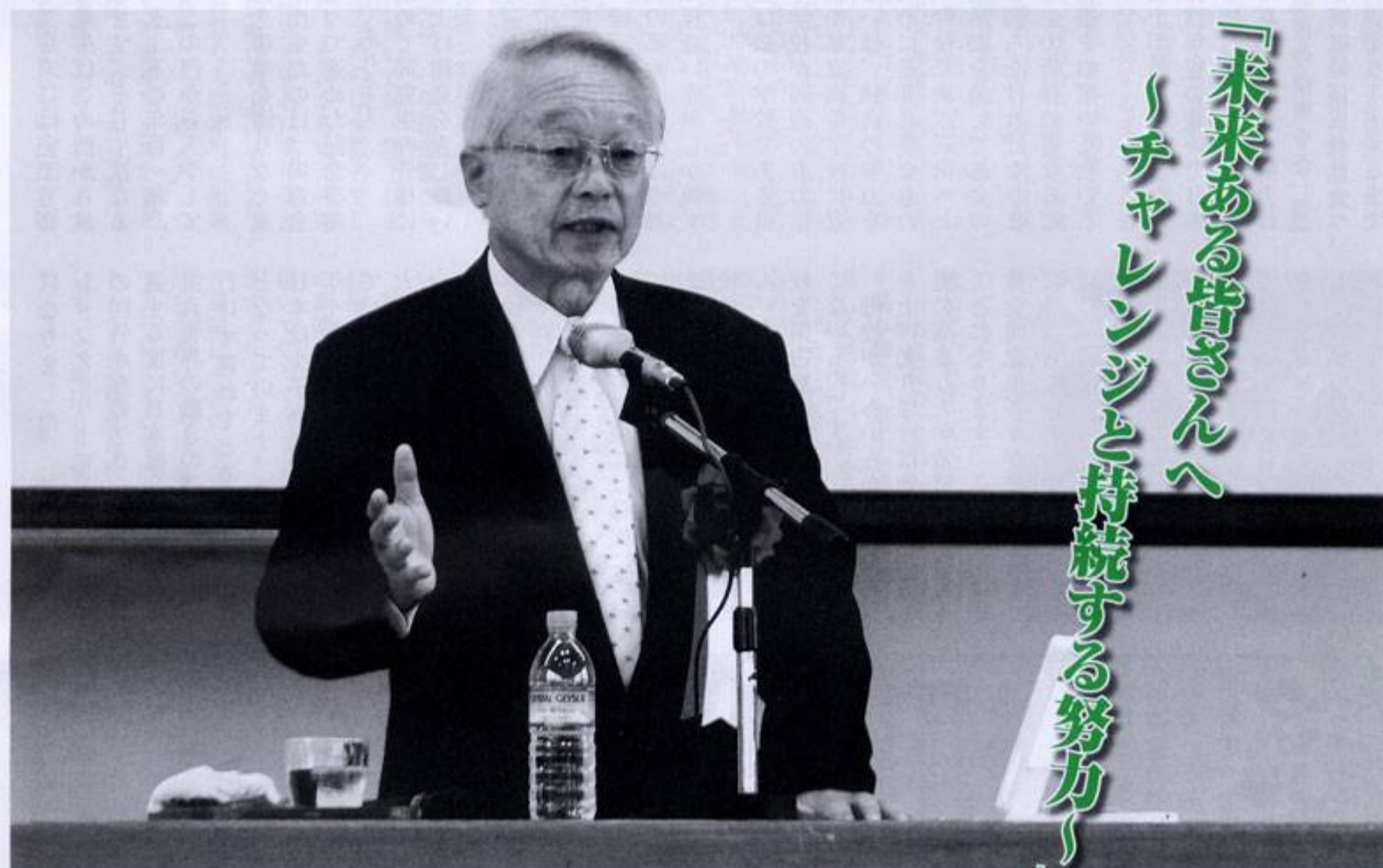
同窓会だより

2013.3.1

第16号

山門高等学校
創立 100 周年

OBを迎え記念講演



【講師】 三菱商事(株)常勤顧問

亀崎 英敏 氏

(昭和 37 年卒)

昨年 11 月 10 日に創立 100 周年記念行事が開催され、昭和 37 年度卒業の亀崎英敏氏による「チャレンジと持続する努力」と題し講演をいただきました。

先輩は、現在のみやま市山川町出身で、山門高校から横浜国立大学へ進学され卒業後三菱商事に 41 年間勤務され副社長を務められました。その後、日本銀行審議委員の 5 年間の任期を終了され、現在 APEC ビジネス諮

問委員会 (ABAC) の日本委員として活躍されています。

講演は、ご自身の経験をもとにしたアドバイスでした。現在の活動の原点が山門高校であり、これまでの勉強、体験の積み重ねが現在の活動につながっていること、特に「物事は一朝一夕ではならないこと」「一歩出る勇気を持って、チャレンジし努力を持続させること」の大切さを教えていただきました。

亀崎先輩お忙しいところ貴重なお話ありがとうございました。

母校創立百周年に思う



山門高校同窓会
会長
板橋 二元昭

明治四五年（一九一二）の創立から現在まで百年の風雪を得て福岡県立山門高等学校は地域に密着した学校としてその存在を誇示しています。

その間母校を巣立った卒業生は、二二、三九二名、旧職員は七一七名を数えます。

因みに全卒業生を会員とする同窓会の設立は学校設立より遅れること四五年、昭和三二年（一九五七）のことです。従って母校創立百周年に当る平成二十四年（二〇一三）は同窓会設立五十五年ということになります。

同窓会は平成二二年秋より学校、父母教師会と共に実行委員会を構成し、母校創立百周年記念事業の準備をはじめ、今日まで各種記念行事に取り組んできました。学校主催の平成二四年十一月十日の百周年記念式典をメインに進められた一年かかるとの数々の記念事業は今年三月末をもって終了します。

過ぎ去った百年から次なる百年への架橋をイメージした新しい正門の建設は昨年七月の北部九州豪雨災害により着工が遅れ

ましたが、二月末には完工し百周年目の卒業生はこの門から巣立って行きます。そして次なる百年へのスタートの年百一年目の新入生はこの門から入学して来ます。

一連の記念事業を滞りなく進めることが出来たのは、同窓会が主体となって進めた記念事業募金のお蔭であります。

ここに改めて同窓生の皆様に御礼を申し上げ謝意を表したいと存じます。

なお記念事業の一つである「スポーツ文化活動支援基金」については私共役員の力量不足と社会情勢、経済状況の厳しさもあって今後の募金活動では当初の目標には程遠い成果しか残すことができませんでした。

この基金は公の学校である県立山門高等学校が周辺の有力県立高等学校や私立高等学校に遅れをとらない様、独自の努力をしてゆくために是非必要なものである。今後二次、三次へと続ける募金活動を通して基金の積み上げを図らなければなりません。同窓生の皆様の更なるご理解とご支援をお願いしたいと存じます。

さて、七十年前に勃発した太平洋戦争は四年程の戦いで日本が敗北し終結しました。その後日本国民の真摯で勤勉な努力は瞬く間に戦後の復興をなし遂げ、日本は高度経済成長社会へと変貌し世界をリードするまで

になりました。しかしオイルショック、リーマンショック等の国外からのアクシデントに遭遇する度に日本社会の足並みは乱れ世界の動きの速さについて行けず遅れをとる昨今の状況となっております。そして今日、日本は少子高齢化社会となり、年々人工が減少する時代を迎えています。そのため高等学校や大学に進む若年人口が著しく減少する傍ら、進学希望者を全員受け入れても定員数に満たない学校が続出するほどに高等学校や大学の数が過剰になってい

ます。同窓生の皆様には母校について様々な思いがあることと存じます。しかし自分の履歴から母校の名を消すことはできません。多感な青春期を過ごした母校を閑古鳥が鳴く学校にはしたくないものです。

母校がいろいろな分野で実績を上げ光り輝けば地域の期待も更に高まり入学希望者も増えることとなります。このことは畢竟同窓生各々が光り輝くことに他ならないのです。そのためには「同窓生の母校への愛と献身」そして「同窓会の努力」が不可欠であります。

次なる百年を存続し発展し地域の期待に応えうる母校であってほしい。創立百周年記念事業を終えるに当たって同窓会会長としての私の思いであります。

負けるもんか



山門高校
校長
井上 正明

負けるもんか

がんばってれば、いつか報われる。持ち続けられれば、夢はかなう。そんなのは、幻想だ。たいてい、努力は報われない。たいてい、正義は勝てはしない。たいてい、夢はかなわない。そんなこと、現実の世界ではよくあることだ。けれど、それがどうした。スタートは、そこからだ。技術開発は、失敗が99%。新しいことをやれば、必ずしくじる。腹が立つ。だから、寝る時間、食う時間を惜しんで何度でもやる。さあ、きのうまでの自分を越えろ。きのうまでのHondaを越えろ。負けるもんか。

By Honda

秋の雨の日にあるところを車で走っていると、大きなトラックの荷室の部分に先のメッセージが書いてあった。今の日本社会に対する「Honda」のメッセージです。

大人は若者に説教しながらよく「夢を持つのだ」「努力をするのだ」「正義は正しい」と言う。

確かに夢が叶うのは幻想に近いのかもしれない。多くの努力は報われないかもしれない。正義は勝てないかもしれない。そのような現実はどこにもあるだろうし、現実はそのうちかもしれない。それでも、私は思うのです。「それがどうした。スタートは、そこからだ。」と。この言葉がなければ、良い結果が出なかったら人は先に進むことはできないのです。困難や試練を越えて、結果の如何に関らず、人が足を先に進める言葉が「それがどうした」という言葉なのです。自分の心の中で叫ぶには、シンプルで良い言葉です。

このシンプルで良い言葉は、今日の便利で快適で満足した生活の中では、なかなか見つかりません。なぜ、見つからないのか。否、何故見つけられないのか。答えは、生まれてから快適で便利な生活をしてきた者は「それがどうした」と思わなくても、快適で便利な生活を送ることができたからです。これが、物質的に豊かになった国の人々の有り様の一面かもしれません。

物質的、経済的に豊かで便利で快適で満足した会社にあっても、そこにある困難や試練を乗り越えようとするとき「夢」や「努力」は必要であるはずですが。だから現実の壁が立ち上がった時に、「それがどうした。スタートは、そこからだ。負けるもんか。」という言葉が大切であるのです。

同窓会総会を終えて

前年度実行委員長 平成二年卒 松尾 恵次

まず最初に昨年の同窓会総会におきましては、多数の方々に参加をしていただき、盛会のうちに終了することができました。これもひとえに、学校施設や備品を快く提供していただいた井上校長先生はじめ先生方、在校生の皆さん、そして板橋同窓会会長をはじめとする同窓会役員及び関係会員の方々及び、同窓会総会の開催にご協力、ご尽力いただきましたすべのみなさまのおかげでございます。

平成二年卒の実行委員を代表いたしまして心より感謝御礼申し上げます。

さて、今回は「伝統・固い絆で一つに」をテーマに掲げ、例年通り三部構成で実施いたしました。例年より開始時間を一時間早くさせていただき、みなさま方には大変ご迷惑をおかけいたしました。

まず第一部では、河野議長のもと、みなさまの協力ももちまして、創立百周年記念事業について



などの議案が滞りなく審議されました。続いて、第二部の講演会ではIKKOさんをお招きして「絆」をテーマにご講演いただきました。知名度抜群のIKKOさんという事で、体育館には入りきれないほどの大勢の方々で賑わいました。講演では、自ら成功するまでの苦労話を笑いに換え、美容の秘訣や歌、質疑応答と、会場の中をとろろ狭しと歩き回られ、サービス精神満載で大いに盛り上がりました。

さらに、第三部の懇親会ではジャワ島の民俗音楽であるガムランを楽しんでいただきました。「サデイ・スワリ」さんの心温まる演奏に魅了され、とても贅沢な時間を共有できたものと思います。乾杯の後は、学年の枠を超えた同窓会の交流が始まり、至る所で笑顔と歓声が溢れ、大いに盛り上がりつつありました。終わるのが惜しいぐらいの大盛況でした。山門高校が今年百周年を迎えるという宣伝と次の百年に向けての勢いはついたと思っております。

思い起こせば、一年前先輩からタスキを受け継いだ時、壇上に上がったのは十数名でした。それから地元同級生を中心に実行委員会を立ち上げました。

自分たちに本当に出来るのだろうか、いつも不安を抱えています。そのような時は、先輩方からアドバイスと励ましをいただきました。

重ねていきながら、実行委員会を

山門高校の伝統、同窓会の伝統を噛み締め、重圧を感じながらも、楽しく活動し、絆を深めていきました。そして総会当日は、百十数名の同級生が集まり、固い絆で一つになれたと思います。人生の節目の歳に、この総会運営の大役を担わしていただけました事に改めて感謝申し上げます。またとない貴重な経験をさせていただきました。人としてまた少し成長できたものと思います。山門高校には、卒業してから良い影響を与えていただき、本当に良い学校だなと感じています。

再会した仲間達とともに、この経験も一生の宝となりました。この素晴らしい伝統を後輩達も引き継いでいってほしいと思っております。

最後に、このように素晴らしい同窓会総会が今後も永遠に続きますように、また平成25年度総会のさらなる発展をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



シリーズ 名物先生

その⑦



調美佐先生 (旧姓 吉開)

私達平成2年卒業生がお世話になった先生方より、吉開先生(英語担当)にお話を伺いました。

先生は私達が1年生の時に初めてクラス担任になられ、9年間山門高校に在籍されていらっしゃいます。

①山門高校での思い出は?

と記憶しているとのこと。

初めて担任となった先生は当時25歳だった。マラソン大会の練習では、友野先生に、走りなさい!と言われ、生徒と一緒に走り死にそうだったとのこと。夜中も歩き続ける鍛錬遠足(100kmハイイク)の昼間に付き添い歩き続けたこと。清水山までの遠足を一緒に歩いたこと。若かったあの頃は生徒とともによく歩いたことを一番に思い出されるそうです。

②生徒の進路実現に必要なことは?

夢を持つこと。そして、諦めない心。

先生は、小学校教諭であったご両親の影響も大きく、英語の

教師になる夢を抱き、その夢を実現され、教師となり27年になられます。

どの段階でも構わないので、夢を持つことが大きな力となることをお話下さいました。

③在校生の皆さんにメッセージ

とにかく、自分を信じて頑張ってみましょう!何をすることも考えるだけで終わらず、行動に移してみましょう。やってみないとわかりませんよ!と熱い言葉を頂きました。

先生にお会いしお話を伺ったのですが、担任をして頂いたあの頃と変わらない語り口に、懐かしい情景や思い出一杯になり楽しい時間を過ごさせて頂きました。

先生とのお話の中で何度も登場した。夢、という言葉が印象的でした。4代になった私達ですが、目標を持つことで日々の暮らしの充実感が変わってくるのではないかと、先生からのメッセージを頂いた気がします。本当にありがとうございます。

平成二十五年 同窓会総会に向けて
テーマ「感謝」



実行委員長
松尾 剛
平成三年卒

昨年山門高校は、創立100周年を迎え大きな節目の年となりました。卒業生も2万人を超え、積み上げられた歴史の偉大さを感じます。今年も101年目。新たなスタートとして、昨年に続く大きな節目の年と位置付けています。

私たち平成3年卒業生は、そんな年の同窓会総会を担当させていただきます。責任の重大さを感じつつ、高校同期の仲間と一緒に取り組むことに感謝しています。

まず、同窓会の核となるテーマですが、実行委員会で協議を重ねた結果、「感謝」となりました。この言葉には、多くの思いが含まれます。先輩方が築き上げてこられた100年の歴史に感謝。と同時に40歳で同窓会総会担当として仲間を取り組む機会を与えてくれる伝統に感謝。みやま市唯一の高校として育ててくださった地域に感謝。また、昨年の水害に関して、その復興に力を貸してくださった多くの方々に感謝。このような様々な「感謝」の言葉があつてこそ、「これから」が始まると考えています。「感謝」の言葉があるからこそ次なる目標へ向かっていけると考えています。

このテーマをもって、私たち平成3年卒業生は、平成25年度総会成功へ邁進していきたいと思っております。それから忘れてならないのは、次の世代へ伝統を引き継いでいくことです。このことに関して、私たちが先輩方からご指導と励ましをいただいたように、しっかりと伝えていきたいと思っております。

メイン事業となる講演会ですが、今回講師としてお招きするのは「小久保裕紀氏」です。小久保氏は、プロ野球現役時代の好成績はもちろん、プロ野球界のリーダ者であり、人物像のすばらしさは言わずと知れています。小久保氏の座右の銘は、「一瞬に生きる」であり、すばらしい話を聞けるのではないかと思います。「感謝」についても、常日頃から度々口にされる「ありがとう」の言葉から分かるように、常に「感謝」の気持ちを持っておられますので、いい話が聞けるものと期待しています。また、子どものころから目標がぶれず、文武

一瞬に生きる
元福岡ソフトバンクホークス
小久保 裕紀
5/3 祝日
■日時 2013年
・第一部 同窓会総会(受付8:30~) 9:00~
・第二部 創立百周年記念事業報告会 10:00~
・第三部 講演会(一般入場可) 10:30~
・第四部 同窓会懇親会 12:30~
■会場 山門高校体育館 参加費 2,000円
■お問合せ 携帯090-1360-2346

福岡県立 山門高等学校
同窓会総会
テーマ「感謝」

両道で、授業中寝たことも宿題を忘れたこともなく、常に好成績だったことも有名で、現役学生にもきつと影響のある話が聞けるのではないかと思います。野球に関してですが、小久保氏が持つ最後の目標は教師であり、甲子園で指揮をとることが夢と聞いています。日々白球を追い続けている山門高校野球部も小久保氏の話にふれることで、野球人として、またチームとして刺激になればと思っております。

山門高校が迎えた大きな節目同様、小久保氏も人生の大きな節目を迎えておられます。小久保氏の何をとも講演への期待が膨らむのですが、この共通点からも、最高の講師を迎えられるのではないかと思います。

最後になりますが、同窓会総会開催準備にあたり、快く施設等を開放してくださいました山門高校と、関係各位に心から感謝を申し上げ、益々の皆様のご繁栄とご健勝をお祈り申し上げます。

▲平成25年度同窓会総会ポスター

進路部より

進路指導主事 富重 真晴
(昭和53年生)

同窓会の皆様方には日頃から本校教育活動に対してご支援・ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

本年度は創立百周年の節目に当たりさまざまな記念行事に尽力をいただき感謝しております。特に、野口健氏の記念講演に生徒は多大な勇気と希望をいただき、「富士山から日本を変える」の言葉は進路決定のための大きな指針になったと確信しております。

また、2月19日(火)には昭和53年卒の中島(坂田)成子氏(聖マリア病院看護本部・副院長・看護本部長)にキャリア教育のご講演を依頼していただいております。

さて、平成24年度入試結果は、国立合格者42名、私立大学合格者322名、私立短期大学合格者22名、公務員関係合格者16名と素晴らしい結果を残しました。平成25年度入試も同志社大学や関西大学、西南学院大学等の私立大学に推薦入試で19名合格、公務員関係では、柳川市役所、佐賀県警、刑務官、自衛隊曹候補生等に14名の生徒が進路を確定しております。(12月16日現在)同窓会総会におきまして詳細のご報告ができるものと思っております。

この同窓会たよりが発行されます頃に「桜咲く」のご報告ができるよう生徒の進路実現のために教職員一丸となり頑張っていきます。百一年目の山門高校をよろしくお願いたします。

福岡山門会
総会のご案内

〔名称〕 福岡山門会総会・懇親会
〔日時〕 平成二十五年四月十三日(土) 午後一時受付 午後二時半開始
〔場所〕 福岡国際ホール(博多大丸16階) 〇九二(七二) 八八五五
〔会費〕 男性 七千円 女性 六千円 夫婦 一万円
〔問い合わせ先〕 〇九九(八六)四三三五 榎樋口商会 樋口

平成24年度卒業生
(平成25年3月卒業)

同窓会クラス役員

	男子	女子
1組	◎中村 豪志	田中 彩奈
2組	池松 俊一	五十嵐 有紀
3組	長谷川 拓也	◎千田菜々美
4組	近本 淳	江頭 彩香
5組	田中 創史	村田 麻実

(◎は学年代表)

編集室より

本年の会報16号は、平成24年度の発行委員会が編集いたしました。快く寄稿していただき感謝いたします。



平成16年度制定の山門高校エンブレム
清水山のきし車伝説がモチーフ